

1 第3期宮城県図書館振興基本計画の点検及び評価について

(1) 趣旨

図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3の規定により、図書館は、図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならないこととされています。

また、図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年12月19日文部科学省告示第172号）の規定に基づき、運営の状況に関する点検及び評価を行うよう努めなければならないこととされています。

そのため、上記の法律等に基づき、平成30年度以降における宮城県図書館（以下「当館」という。）が実施する事業に係る点検及び評価を実施するものとします。

(2) 第3期宮城県図書館振興基本計画における進行管理

第3期宮城県図書館振興基本計画を着実に推進するために、施策に掲げた取組の実施状況を把握し、計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）のPDCAサイクルによる進行管理を行います。また、運営の状況について当館による自己評価及び宮城県図書館協議会による外部評価を行い、その結果に基づいて運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めます。

(3) 平成30年度における点検について

点検については、仮評価を踏まえた上で事業毎の点検を行い、施策の方向性毎に進捗状況等を明らかにするとともに、課題の分析や今後の対応の方向性を示すこととしました。

なお、今回の報告については、3月31日現在の実績等を踏まえ作成しています。

(4) 目標指標の達成率の算出について

● それぞれ施策毎に目標指標等を次のストック型とフロー型に分類し、対応する計算式により達成率を算出した。

- ・ ストック型：事業活動に伴う成果を累積して把握する指標
$$\frac{\text{実績値} - \text{初期値}}{\text{目標値} - \text{初期値}}$$
- ・ フロー型：事業活動に伴う成果を単年度ごとに把握する指標
$$\frac{\text{実績値}}{\text{目標値}}$$

※ 目標値を下回ることを目標とする指標の場合などはストック型を準用して算出

(5) 自己評価の判定区分について

施策の方向性を構成する事業の必要性，有効性，効率性を考慮し，目標指標等の達成状況，社会経済情勢，事業の実績及び成果等から見て，次のとおり判断しました。

- ・ 順 調：成果が十分にあり，進捗状況が順調であると判断されるもの。
- ・ 概ね順調：成果がある程度あり，進捗状況が概ね順調であると判断されるもの。
- ・ やや遅れている：成果があまりなく，進捗状況がやや遅れていると判断されるもの。
- ・ 遅れている：成果がなく，進捗状況が遅れていると判断されるもの。

(6) 宮城県図書館協議会による外部評価

今回の宮城県図書館協議会において，当館が作成した最終自己評価を報告した上で評価を決定します。

2 第3期宮城県図書館振興基本計画の構成について

基本方針

県内全域の図書館間ネットワークのより一層の連携・強化に努め、図書館サービスの向上を図ります。また、県民の知る権利を保障し、県民誰もが生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる環境づくりを目指します。

目標

1

宮城県図書館を中核とした市町村図書館等とのネットワーク体制の充実を図るとともに、全県的な図書館サービスの質的向上に努めます。

2

県民のニーズや社会の要請に応えるための充実した図書館サービスを提供します。

3

図書館がその機能を十分発揮するための資料・施設・職員の充実を図ります。

4

ふるさと宮城に関する資料の収集・保存に努めるとともに、東日本大震災の記録を永く後世に伝えるための取組を行います。

施策の方向性

【全47事業】

1

市町村図書館等との連携強化及び支援の充実を図ります。
【6事業】

2

県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り、効果的な研修を実施します。
【2事業】

3

学校図書館との連携を推進するとともに、支援の充実を図ります。
【5事業】

4

子どもの読書活動を推進するための環境の整備促進を図ります。
【6事業】

5

多様な資料・情報の提供に努めるとともに、県民の課題解決を支援する図書館を目指します。
【10事業】

6

ボランティアの活躍の場を創り、その力を生かしたさまざまなサービスの提供を実施するとともに、ボランティア活動を支援します。
【3事業】

7

公平かつ長期的な視点に立ち、県民が必要とする資料を幅広く収集するとともに、適正に整理、保存し、有効活用を図ります。
【4事業】

8

安全安心な施設の維持に努め、県民が利用しやすい環境整備を推進します。
【2事業】

9

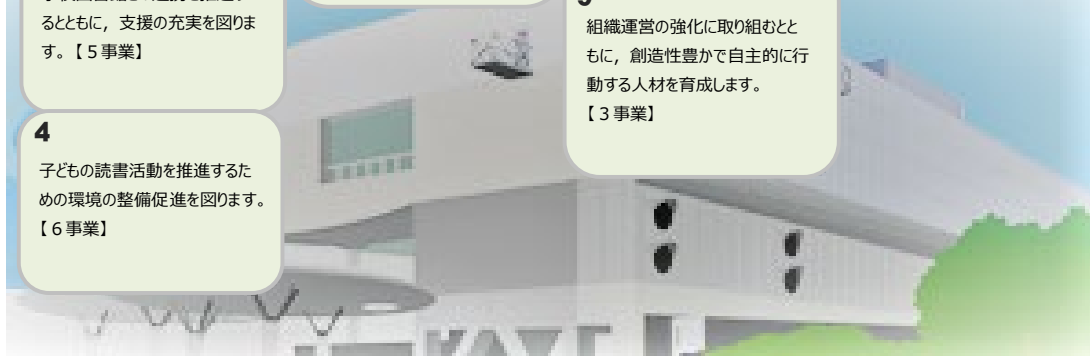
組織運営の強化に取り組むとともに、創造性豊かで自主的に行動する人材を育成します。
【3事業】

10

宮城の郷土資料を後世に伝えるため、収集・保存や修復を行うとともに、利活用の促進を図ります。
【3事業】

11

東日本大震災の記録を収集し、永く後世に引き継ぐための取組を行います。
【3事業】



3 点検・評価の結果について

施策の方向性		自己評価
1	市町村図書館等との連携強化及び支援充実を図ります。	概ね順調
2	県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り，効果的な研修を実施します。	概ね順調
3	学校図書館との連携を推進するとともに，支援の充実を図ります。	概ね順調
4	子どもの読書活動を推進するための環境の整備促進を図ります。	概ね順調
5	多様な資料・情報の提供に努めるとともに，県民の課題解決を支援する図書館を目指します。	概ね順調
6	ボランティアの活躍の場を創り，その力を生かしたさまざまなサービスの提供を実施するとともに，ボランティア活動を支援します。	概ね順調
7	公平かつ長期的な視点に立ち，県民が必要とする資料を幅広く収集するとともに，適正に整理，保存し，有効活用を図ります。	概ね順調
8	安全安心な施設の維持に努め，県民が利用しやすい環境整備を推進します。	概ね順調
9	組織運営の強化に取り組むとともに，創造性豊かで自主的に行動する人材を育成します。	概ね順調
10	宮城の郷土資料を後世に伝えるため，収集・保存や修復を行うとともに，利活用の促進を図ります。	順調
11	東日本大震災の記録を収集し，永く後世に引き継ぐための取組を行います。	概ね順調

4 平成30年度の点検及び評価の総括

第3期宮城県図書館振興基本計画に基づく平成30年度の取組を点検し、当該計画で設定した11の施策の方向性毎にその進捗状況を評価しました。数値的判断として設定した各目標指数に対する達成率と、施策毎の構成事業の取組実績を元に自己評価した結果、「順調」が1件、「概ね順調」が10件となり、「やや遅れている」及び「遅れている」と判断したものは0件でした。

この評価に係る外部評価として、宮城県図書館協議会に諮問することとしており、自己評価の内容やその判断に至った理由、点検において浮き彫りとなった課題などを報告し、審議の結果、自己評価については妥当との判断をいただきました。

今回が当該計画の初年度ということもあり、協議会委員からは目標指数の有効性や実施事業に対する外部視点からの捉え方など、様々なアドバイスやご意見をいただきました。

今後の推進に当たっては、自己評価と宮城県図書館協議会の意見などを踏まえ、評価する中で整理された課題については、対応方針に基づき改善に努めるとともに、目標指標等については随時見直しを実施しながら最適なものになるよう努め、目的を達成した事業についても更に一歩進んだ取組となるよう不断の見直しを行い、これからも市町村図書館等との連携・協力関係をとおして、当館を中核とした図書館ネットワーク体制の充実と、全県的な図書館サービスのさらなる質的向上に努めます。

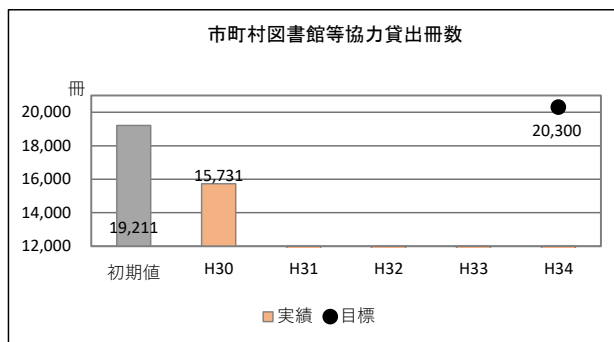
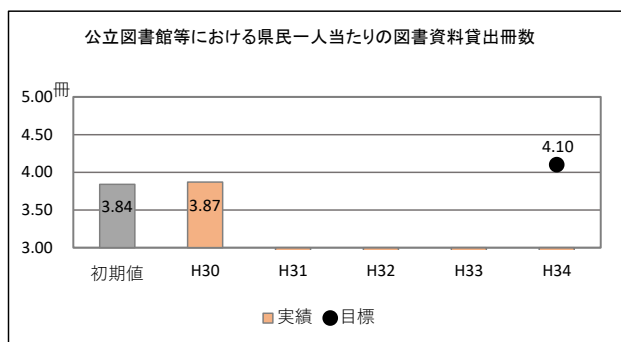
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	平成30年度
--------	--------

施策の方向性	1 市町村図書館等との連携強化及び支援充実を図ります。
--------	-----------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県図書館情報ネットワークシステム(MY-NET)を利活用し、当館から市町村図書館等への協力貸出、当館・市町村図書館等間の相互貸借及び情報交換等を行います。 市町村図書館等を訪問し、各館の現状や課題を把握し、情報の提供や収集及び運営相談、助言等を行います。 市町村図書館等の住民サービスと利用促進に繋げるため、当館から直接館外貸出を受けた資料を、市町村図書館等を通じて返却できるようにし、当館から遠隔地等に在住する県民の利便性の向上を図ります。 被災した図書館等の地域資料を再整備するため、「みやぎデポジットライブラリー」について継続して取り組み、必要な地域資料の収集と再配布を行います。
------	--

目標指標	※「公立図書館等における県民一人あたりの図書資料貸出冊数」の実績値については、「宮城県内公共図書館・公民館図書室等現状調査」の数値を用いているため、調査時期の関係上、前年度（H29年度）実績値を計上している。			
	初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（平成30年度）	達成率
公立図書館等における県民一人あたりの図書資料貸出冊数	3.84冊	4.10冊	3.87冊	94.4% 【フロー型】
市町村図書館等協力貸出冊数	19,211冊	20,300冊	15,731冊	77.5% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
図書館ネットワークシステム運営事業	<ul style="list-style-type: none"> 公共図書館21市町31館、公民館図書室等読書施設14市町村15室(全市町村)が加入し、本の貸出依頼や諸連絡、情報交換等に活用した。 保守業者との定例打合せを年6回実施し、図書館システムの安定化を図った。
協力業務運営事業	<ul style="list-style-type: none"> 県内市町村図書館等への協力貸出を15,731冊、県外図書館等への相互貸借を716冊行い、当館資料の活用を図った。
公立図書館等連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> 年3回(4・6・11月)の会議を開催し、公立図書館等間における連携協力や情報交換を図った。
巡回相談	<ul style="list-style-type: none"> 前期4～6月、後期10～11月の年2回、市町村図書館等35館を巡回し、情報提供や運営相談を実施した。
市町村図書館等返却サービス	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔地等に在住する県民の利便性の向上を図るため、宮城県図書館の窓口で借りた資料を市町村図書館等で返却することができる制度を実施し、1,291件、5,158冊・点の実績があった。

事業名	実績
被災した市町村図書館等の復興支援	<ul style="list-style-type: none"> 日本図書館協会東日本大震災対策委員会主催「東日本大震災被災地図書情報交換会」(10/24)に参加し、被災館の復興状況及び支援情報について紹介した。 第20回図書館総合展(10/30～11/1 於:パシフィコ横浜)において、被災地図書館の復興状況を紹介した。 被災図書館再建に向けての相談を継続して行った。 学校や行政機関で不要になった地域資料を当館が収集し、当該資料を東日本大震災により被災した県内の市町村図書館等に随時提供する「みやぎデジタルライブラリー」の目録を整理の上MY-NETに掲載し、地域資料の利活用を図った。

自己評価	概ね順調
理由 <ul style="list-style-type: none"> 図書館ネットワークシステムを活用し、市町村図書館等との情報交換や資料貸出依頼を適切に行い、緊密に連携することができた。 市町村図書館等への協力貸出については、目標値には届いていない。しかし一方で市町村図書館等の新館オープンが近年相次いでおり、これにより市町村図書館等の蔵書が充足してきていることが一因であると考えられるが、引き続き支援していきたい。 市町村図書館等の運営相談や課題などについて、巡回相談を通じて直接職員同士の対話をするにより、より深いやりとりができた。 被災した市町村図書館等の復興支援として、「図書館総合展」において、復興状況の紹介をする活動ができた。 以上のことから、協力貸出の達成度状況は低いものの、他の構成事業は計画どおり実施できている状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等の運営相談や課題などについては、課題解決につなげるようさらに相談しやすい体制を整える必要がある。 宮城県図書館情報ネットワークシステムをさらに利活用し、図書館間の情報交換や情報共有を図る必要がある。 市町村図書館等返却サービスについては1,291件、5,158冊・点の利用があったが、利用促進を図るため、さらに広報に力を入れる必要がある。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 公共図書館連絡会議や巡回相談等において、十分な情報の収集や提供、運営相談を行い、課題解決につなげるよう努めていく。 宮城県図書館情報ネットワークシステムの使用方法など新規担当者等に研修を行い、利用促進を図る。 県の広報誌やラジオ、情報誌、インターネットやSNS等の各種媒体を利活用し、広く周知するよう努める。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は、妥当であると判断される。 「市町村図書館等協力貸出冊数」は減少しているが、市町村図書館等の蔵書が充足してきているという捉え方もできるのではないかと。

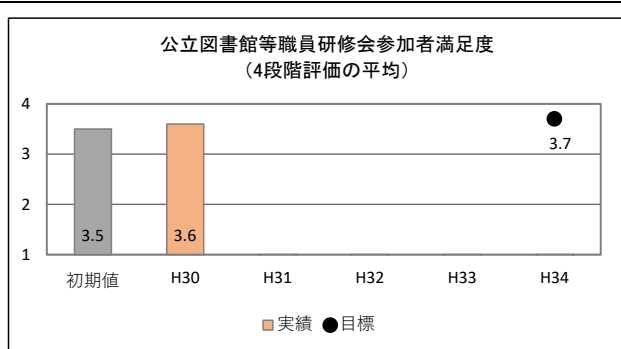
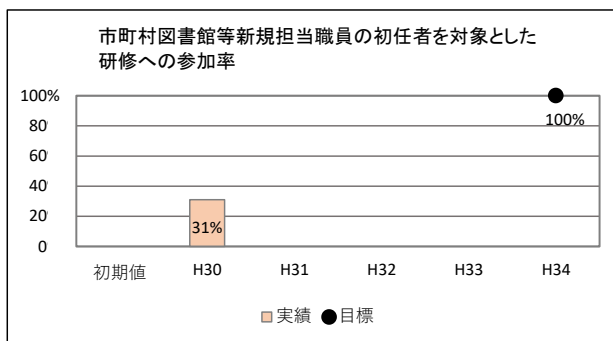
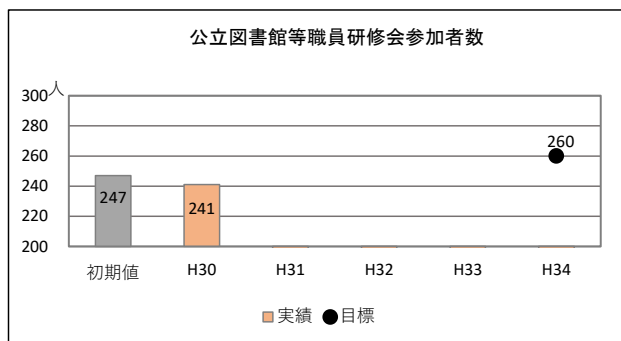
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	平成30年度
--------	--------

施策の方向性	2 県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り、効果的な研修を実施します。
--------	--------------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村図書館等職員の業務担当者及び公立小・中学校、県立学校図書館担当者を対象に、図書館担当職員としての基礎的な知識の習得のための機会を設け、業務推進の一助となるよう研修会を実施します。 ・市町村図書館等が実施する研修会へ当館職員を派遣し、市町村における図書館業務の専門的知識習得と技術力向上を支援します。 ・図書館界の新たな動向や新しいサービスについて、当館職員が学ぶ機会を確保し、市町村図書館等への支援に生かします。
------	--

目標指標					
		初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（平成30年度）	達成率
公立図書館等職員研修会参加者数		247人	260人	241人	92.7% 【フロー型】
市町村図書館等新規担当職員の初任者を対象とした研修への参加率		—	100%	31.0%	31.0% 【フロー型】
公立図書館等職員研修会参加者満足度（4段階評価の平均）		3.5	3.7	3.6	97.3% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
公共図書館等職員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村図書館等職員・学校司書等を対象とした研修会を年3回（5・7・12月）実施し、知識と技能習得を図った。 ・受講者数については、延べ241人の参加があった。 ・参加者アンケートでは平均3.6の高い評価を得た。
出前講座	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村図書館等業務の専門的知識習得と技術力向上を支援するため、研修会等へ当館職員を4町村6回派遣した。

事業名	実績
図書館地区別研修開催事業	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省及び宮城県教育委員会主催、当館主管により、司書等の資質向上のための研修を11月14日から16日までの3日間実施した。 図書館に関するテーマや地域における課題等について9名の講師による講義を行ったところ、87名の参加があり、今後の業務の参考になったという意見が多く好評であった。

自己評価	概ね順調
------	------

理由

- 公共図書館等職員研修については、初任者を対象とした研修への新規担当者の参加率は低い状況であり、全体の受講者数はほぼ横ばいであるものの、満足度は上昇しているため、受講者が研修内容に満足していると考えられる。
- 出前講座については、年2回の巡回相談にて積極的に広報を行い、研修会等への派遣回数が増加した。
- 以上のことから、目標指標の一部は達成度状況は低いものの、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。

課題

- 公共図書館等職員研修会について、講師を招聘するための十分な予算の確保ができない状況にある。
- 初任者を対象とした研修会には、新規担当職員が参加できるよう開催時期及び受講機会の確保を検討するとともに、積極的に参加を促す必要がある。

対応方針

- 市町村図書館等支援のための各種研修会開催に要する経費予算の確保に努め、現状の課題を解決できるような研修会の開催及び出前講座の実施を目指す。
- 初任者を対象とした研修会の実施については、市町村図書館等職員の人的配置が限られており、採用初年度では受講の機会が得られないケースも考えられることから、採用後複数年にわたるスパンで受講できるようにする。

協議会委員意見

- 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は、妥当であると判断される。
- 公共図書館等職員研修について、業務の都合で対象者全員の参加は難しいが、研修自体は人材育成のため今後も継続してほしい。
- 市町村図書館等の課題を解決するための研修や出前講座を実施してほしい。
- 初任者の定義を3年までとし、3年以内に初任者層研修を受講できるよう配慮を要する。

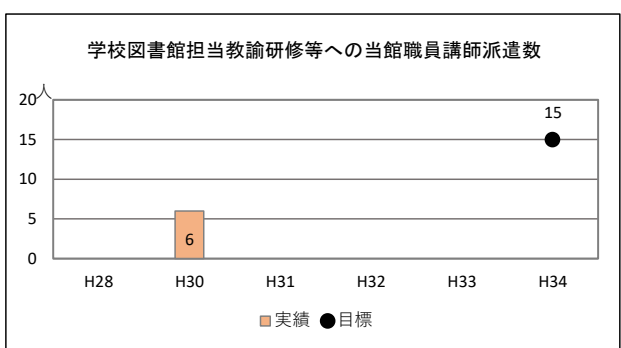
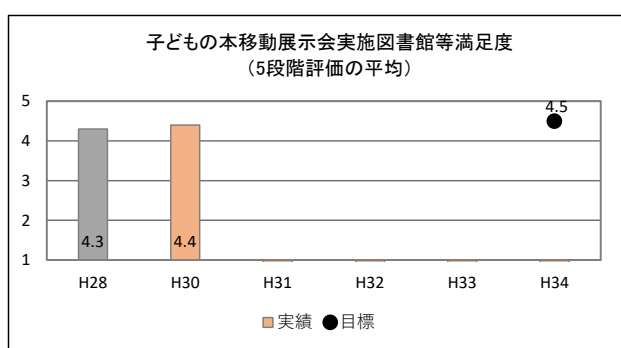
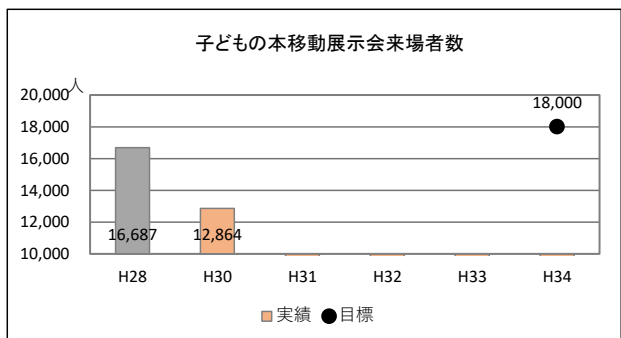
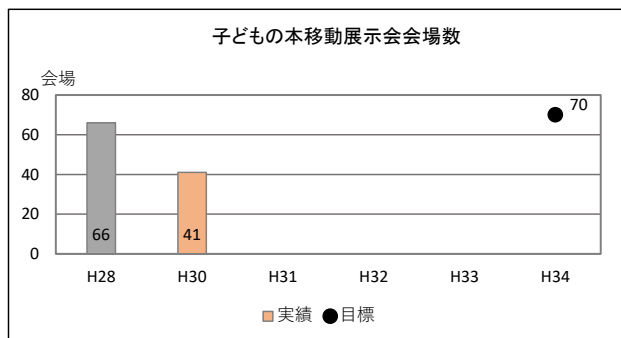
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	平成30年度
--------	--------

施策の方向性	3 学校図書館との連携を推進するとともに、支援の充実を図ります。
--------	----------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの本展示会で展示した児童書を貸し出す移動展示会を実施し、児童書のさらなる活用を図ります。 ・ 幅広い内容の本をテーマ別・対象学年別に組んだセット資料を、市町村図書館等を通して小・中学校に貸し出します。 ・ 歴史や文化に親しむ大きな契機とするため、当館が所蔵している貴重資料の複製を県内の高等学校・市町村図書館等に貸し出します。 ・ 高等学校及び支援学校等図書館との連携・協力を推進するため、ニーズを調査し、それに応じた支援事業の実施に向けて検討します。 ・ 学校図書館担当教諭研修等へ当館職員を講師として派遣することにより、学校司書を対象とした研修との相乗効果を図りながら、学校図書館運営を側面から支援します。
------	--

目標指標	初期値 (平成28年度)	目標値 (平成34年度)	実績値 (平成30年度)	達成率
子どもの本移動展示会会場数	66会場	70会場	41会場	58.6% 【フロー型】
子どもの本移動展示会来場者数	16,687人	18,000人	12,864人	71.5% 【フロー型】
子どもの本移動展示会実施図書館等満足度 (5段階評価の平均)	4.3	4.5	4.4	97.8% 【フロー型】
学校図書館担当教諭研修等への当館職員講師派遣数	—	15人	6人	40.0% 【フロー型】



構成事業の実績	実 績
事 業 名	績
子どもの本移動展示会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの本展示会で展示した2017年の新刊児童書200冊を1セットとし、県内市町村図書館や公民館図書室16館へ26セット、小・中学校、特別支援学校25校へ30セットを貸し出した。

事業名	実績
学サボセットの貸出	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等と小・中学校との協力・連携への側面的支援のため、テーマ別、学年別の児童書セットを10市町村13館へ延べ55セットを貸し出した。
複製資料貸出事業	<ul style="list-style-type: none"> 県内の高等学校や市町村図書館延べ14箇所に、坤輿万国全図などの複製資料31点を貸し出し、著名な資料や郷土の文化の発信に努めた。
学校図書館運営サポート事業	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館担当教諭研修会へ当館職員3名を講師として派遣し、学校図書館の運営を支援した。 高等学校との連携・協力を推進するため、実態調査を行った。
公共図書館等職員研修（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等職員・学校司書等を対象とした研修会を年3回（5・7・12月）実施し、知識と技能習得を図った。 受講者数については、延べ241人の参加があった。 参加者アンケートでは平均3.6の高い評価を得た。

自己評価	概ね順調
------	------

理由	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの本移動展示会については、申し込みが増加傾向にあるものの、搬送料の急激な高騰により十分な予算の確保ができなかった。そのため申し込みのあったすべての施設で実施できなかったため会場数、来場者数は目標値には届かなかった。しかし、実施した施設からは目標値に届く満足度を得た。 複製資料貸出については、利用後のアンケートでは、すべての回答で「再度利用したい」との評価を得た。 再掲事業については、8ページ参照 以上のことから、目標指標の達成度状況は低いものの、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館サポート事業については、研修会へ当館職員を講師として派遣し運営を支援しているが、今後県立学校の実態調査結果を踏まえ、さらに検討を重ねる必要がある。 子どもの本移動展示会については、申し込みが増加傾向にあることから、それに見合う予算の確保をする必要がある。 複製資料貸出については、より多くの高等学校や市町村図書館等に利活用してもらえるよう周知する。
----	---

対応方針	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館サポート事業については、実態調査を基に具体的な支援策について検討を進める。 子どもの本移動展示会等については、事業に係る予算を確保するとともに、より効率的に実施できるようなシステムを検討する。 各種会議や巡回相談等において、わかりやすい複製資料貸出リストを提供する。
------	--

協議会委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は、妥当であると判断される。 小・中・高の先生方が加入している学校図書館協議会と連携し、実際に関わっている方々とともに課題を洗い出す調査に取り組んでほしい。 子どもの本移動展示会は、子どもたちにとって参考になるので、大事な事業だと思う。
---------	---

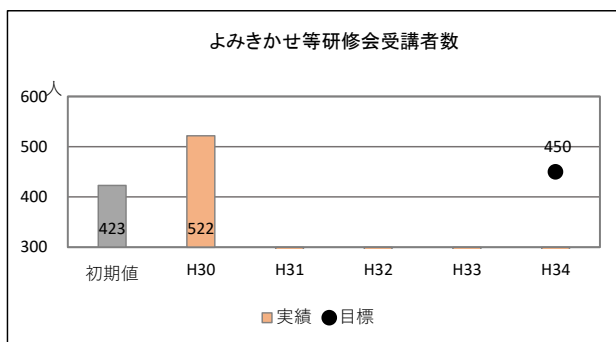
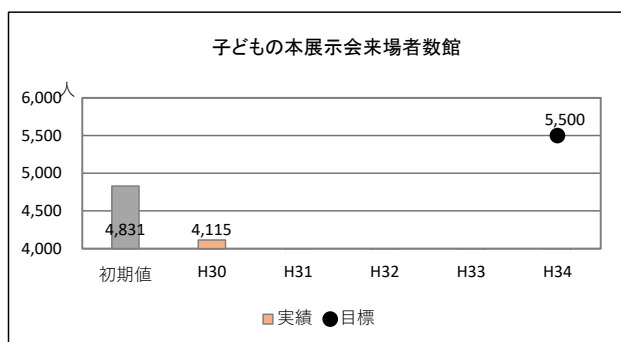
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	平成30年度
--------	--------

施策の方向性	4 子どもの読書活動を推進するための環境の整備促進を図ります。
--------	---------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの読書環境や読書活動促進のため、児童書や児童文学賞作品、「小中学生のための読書案内『本のいずみ』」に紹介した資料を展示する「子どもの本展示会」を開催します。 ・ 子どもの読書活動を推進する担い手の育成とさらなる資質向上を目的として、おはなし会を行う基本的知識と技能を習得するための研修を実施します。 ・ 図書館を身近なものに感じてもらうための夏休み親子ツアーを実施します。 ・ 児童資料研究・相談室については、時代のすう勢を再確認しながら、利用のあり方等を検討します。
------	--

目標指標				
	初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（平成30年度）	達成率
子どもの本展示会来場者数	延べ4,831人	延べ5,500人	延べ4,115人	74.8% 【フロー型】
よみきかせ等研修会受講者数	延べ423人	延べ450人	延べ522人	116.0% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
子どもの本展示会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代を担う子どもたちの読書環境整備や読書活動促進のため、前年出版の児童書約2,000冊を展示した。また、テーマ展示として、2017年の児童文学賞作品及び小中学生のための読書案内(本のいずみ)に紹介した約100冊を展示した。期間中、延べ4,115人の来場者を得た。
よみきかせ等研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの読書環境を推進する担い手の育成とさらなる資質向上を目指し、おはなし会を行う際に必要なよみきかせ等の基礎知識と技能の修得を図るため、年間13回の研修会を開催し、延べ522人の参加者を得た。
夏休み親子ツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちに読書環境としての図書館を理解してもらうため、図書館業務体験と館内案内を実施した。8月3日、4日の2日間開催し、14組36人の参加があった。
学サポセットの貸出（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村図書館等と小・中学校との協力・連携への側面的支援のため、テーマ別、学年別の児童書セットを10市町村13館へ延べ55セットを貸し出した。
複製資料貸出事業（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の高等学校や市町村図書館延べ14箇所、に、坤輿万国全図などの複製資料31点を貸し出し、著名な資料や郷土の文化の発信に努めた。

事業名	実績
子どもの本移動展示会（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの本展示会で展示した2017年の新刊児童書200冊を1セットとし、県内市町村図書館や公民館図書室16館へ26セット、小・中学校、特別支援学校25校へ30セットを貸し出した。

自己評価	概ね順調
<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの本展示会については、ここ数年、期間中の来場者数が4,000人前後で推移しており、今年度についても前年度の4,047人を上回る入場者数を得た。 よみきかせ等研修については、受講申し込みが定員を上回る講座が多いなど、県民の関心が高まってきたことが伺える。受講後のアンケートでも満足度が高い。 夏休み親子ツアーについては、実施後のアンケートによると、とてもおもしろかったという感想が圧倒多数を占め、大変好評であった。 児童資料研究・相談室については、利用件数は少ないものの、他県の大学教員の利用があり、蔵書が多く参考になったという意見があった。 再掲事業については、10ページ参照 以上のことから、目標指標の達成度状況が低いものはあるものの、全体的にみても計画どおり事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> 児童資料研修・相談室については、利用促進を図るため、大学や専門学校等への広報活動を行ってきたものの、利用件数が少ない状況である。 夏休み親子ツアーについては、参加者が親子に限定され、利用者の広がりがみられなかった。 再掲事業については、10ページ参照

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 児童資料研究・相談室については、利用のあり方について根本的に考える次期に来ていることから、時間をかけて検討する。 子どもの読書活動を推進するため、各種事業の広報活動を充実させる。 夏休み親子ツアーについては、次年度から親子以外でも参加できるよう、事業名称を「夏休みお仕事体験ツアー」に変更する。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は、妥当であると判断される。 よみきかせ等研修会は、目標指標を超え素晴らしい。良い理由の分析についても適切に行い、さらに伸ばしてほしい。

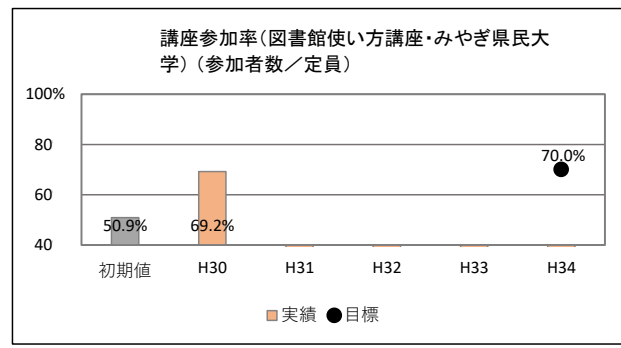
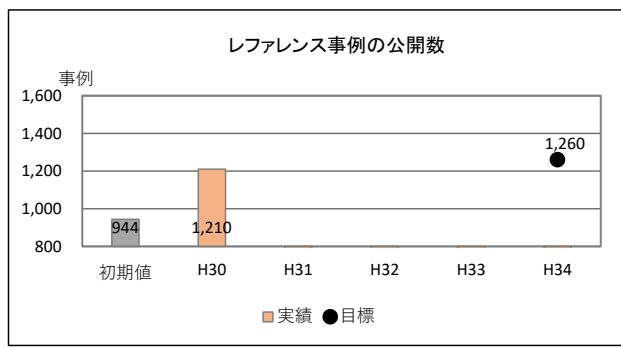
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	平成30年度
--------	--------

施策の方向性	5 多様な資料・情報の提供に努めるとともに、県民の課題解決を支援する図書館を目指します。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス事例の公開や、レファレンス協同データベースを活用し、付加価値の高い情報発信を行います。 パスファインダーを作成して配布するとともに、ホームページに公開します。 資料検索端末やデータベース等の講習を実施し、利用者が自身で課題解決できるようサポートします。 県民の生涯学習支援の一環として、より多くの学習機会を提供するために、当館所蔵資料を活用した「みやぎ県民大学」等を実施します。 視覚障がい者や目で字を読むことが困難な方々に、視覚障害者情報総合ネットワーク「サビエ」を活用して、点字やデジータ等の情報を提供し、サービスの充実を図ります。 宮城県図書館情報ネットワークシステム(MY-NET)を更新し、よりわかりやすく、利用しやすいホームページの作成を目指し、利便性の向上を図ります。 県民の課題解決支援のための各種講座やイベント等について、ホームページやSNS、新聞等を活用し、常に最新の情報を提供します。
------	---

目標指標					
	初期値(平成28年度)	目標値(平成34年度)	実績値(平成30年度)		達成率
レファレンス事例の公開累積数 (初期値との差)	944事例 (—)	1,260事例 (+316事例)	1,210事例 (+266事例)		84.2% 【ストック型】
講座参加率(図書館使い方講座・みやぎ県民大学) (参加者数/定員)	50.9%	70.0%	69.2%		98.9% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
レファレンス事例の公開	<ul style="list-style-type: none"> 調査相談件数22,820件のうち、公開可能なものをレファレンス共同データベースに、7月・10月・2月の3回、合計129件のレファレンス事例を公開し、累積で1,210件の公開を行った。
パスファインダーの作成・公開	<ul style="list-style-type: none"> 新規に「日本の神々について調べるには」「温泉について調べるには」等9件のパスファインダーを作成して配布するとともに、ホームページにも公開した。
図書館使い方講座	<ul style="list-style-type: none"> データベース講座として、①使ってみよう！ジャパンナレッジ(辞書・事典の検索データベース) ②使ってみよう！新聞記事データベース ③使ってみよう！国立国会図書館デジタルコレクション ④使ってみよう！叡智の柱WEB ⑤D1-law.com(法情報総合データベース)の5講座各2回の合計10回、OPAC講座を5回実施した。各2名の定員に対して合計18名の参加があった。
図書館見学ツアー	<ul style="list-style-type: none"> 毎月第3土曜日開催し、延べ61名の参加があった。 毎回参加者にアンケートを依頼しているが、それによると「普段見ることのできない場所を見ることができて良かった。」などという声もあり、好評を得た。

事業名	実績
みやぎ県民大学	<ul style="list-style-type: none"> 8月～10月に明治150年記念講座を4回開催し、定員100名に対し72名(延べ194名)の参加があった。 受講者アンケートによると、理解度、満足度ともに高い評価を得た。
ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> 11月に開催し、バトラー(発表者)7名、オーディエンス(参加者)23名の参加があり、新しい本との出会いを通じて県民の図書館への関心を高め、利用促進を図った。
サピエ図書館サービス	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障がい者や目で字を読むことが困難な方々に、視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」を活用して点字やデジデータ等の情報を提供し、利用者1名、1件の利用があった。
「ことばのうみ」発行	<ul style="list-style-type: none"> 7月(60号)は、巻頭エッセイは作家渡辺優氏、特集はレファレンスサービスの案内とした。 10月(61号)は、巻頭エッセイは漫画家いがらしみきお氏、特集はビブリオバトルとした。 1月(62号)は、巻頭エッセイは仙台89ERS取締役GM志村雄彦氏、特集は当館や市町村図書館等の平成30年の動きをまとめた。 各8,000部発行し、県内外の利用者への当館の活動の広報をおこなった。
情報エントランスみやぎ	<ul style="list-style-type: none"> 1階エントランスを活用し、宮城県や他の外部機関と連携してパネル展示を行い、県民にさまざまな情報を提供した。13機関14回の利用実績があった。
宮城県図書館情報ネットワークシステム(MY-NET)の更新	<ul style="list-style-type: none"> 利便性向上を図るための機能の追加や改善すべき点を洗い出し、よりよい図書館サービスの提供ができるシステムに更新するよう検討を重ねた。 平成31年度に更新を行うため、県の担当課との打合せを行い資料作成をした。

自己評価	概ね順調
理由	
<ul style="list-style-type: none"> レファレンス事例の公開数については、目標公開件数(目標値－初期値)316件のうち前年度は106件、今年度は129件を公開しており、概ね順調に進んでいる。 図書館使い方講座やみやぎ県民大学等の県民参加型事業については、講座参加率は定員に達しなかったが、いずれも高い満足度を得た。 『ことばのうみ』については、巻頭エッセイは宮城県出身者で現在も各分野で活躍されている方から寄稿をいただくことができた。また、これまで発行したものを活用した展示を行うことができた。 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> サピエ図書館サービスについては、どのようなサービスが受けられるのかが利用者に十分に周知されていない。 図書館使い方講座やみやぎ県民大学等の県民参加型事業については、事業により参加率のばらつきがあるので、全体の底上げが必要である。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> サピエ図書館サービスについては、館内にポスター等を掲示し広報に努めるとともに、関係機関と連携を深め利用者増を図る。 イベントや行事の開催については、テーマ設定を工夫するとともに、新たな広報手段を模索する等、多くの県民に認知してもらうよう努める。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は、妥当であると判断される。 講座参加率(図書館使い方講座・みやぎ県民大学)(参加者数/定員)は実人数にした方がわかりやすい。

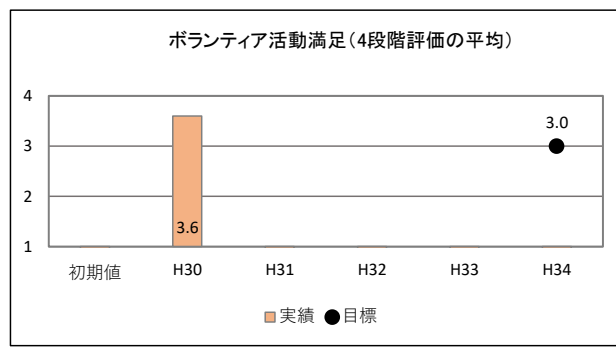
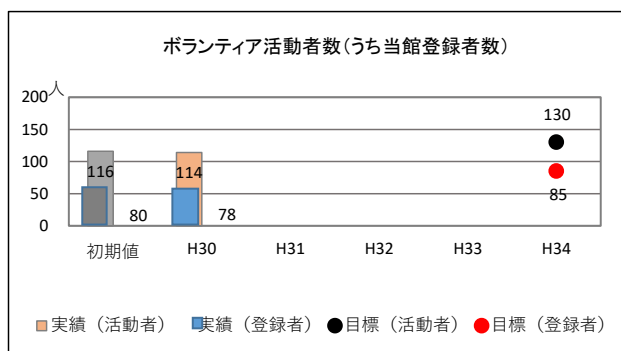
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	平成30年度
--------	--------

施策の方向性	6 ボランティアの活躍の場を創り、その力を生かしたさまざまなサービスの提供を実施するとともに、ボランティア活動を支援します。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア登録により、書架整理・展示室等案内・音訳・蔵書点検等の活動分野において、職員やボランティア同士のコミュニケーションを図りながら活動を支援します。 ・ ボランティア活動に必要な基礎的知識や技能を習得するための研修体制を充実させます。 ・ 当館ボランティア登録者以外についても、充実したボランティア活動ができるよう、生涯学習の一環として活動の場を提供します。
------	---

目標指標																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期値 (平成28年度)</th> <th>目標値 (平成34年度)</th> <th>実績値 (平成30年度)</th> <th>達成率</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボランティア活動者数 (うち当館登録者数)</td> <td>116人 [80人]</td> <td>130人 [85人]</td> <td>114人 [78人]</td> <td>87.7% [91.8%]</td> <td>【フロー型】</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動満足 (4段階評価の平均)</td> <td>—</td> <td>3.0</td> <td>3.6</td> <td>120.0%</td> <td>【フロー型】</td> </tr> </tbody> </table>		初期値 (平成28年度)	目標値 (平成34年度)	実績値 (平成30年度)	達成率		ボランティア活動者数 (うち当館登録者数)	116人 [80人]	130人 [85人]	114人 [78人]	87.7% [91.8%]	【フロー型】	ボランティア活動満足 (4段階評価の平均)	—	3.0	3.6	120.0%	【フロー型】
	初期値 (平成28年度)	目標値 (平成34年度)	実績値 (平成30年度)	達成率															
ボランティア活動者数 (うち当館登録者数)	116人 [80人]	130人 [85人]	114人 [78人]	87.7% [91.8%]	【フロー型】														
ボランティア活動満足 (4段階評価の平均)	—	3.0	3.6	120.0%	【フロー型】														



構成事業の実績	
事業名	実績
ボランティア活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書架整理・展示室等案内・音訳・協力貸出搬送・蔵書点検等の各分野において、週1回2時間程度のボランティア活動の場を提供するとともに、活動のサポートをした。 ・ よみきかせ活動については、活動団体を募集したところ9団体36人の登録があり、子ども図書室にて活動した。
ボランティア養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体研修会として、「宮城県図書館の概要」「緊急時の対応」「交流会」「講演会」などを年2回実施したほか、活動分野毎にサービス内容や技能習得のための養成講座や専門講座を39回実施し、延べ181人の参加があった。
よみきかせ等研修会 (再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの読書環境を推進する担い手の育成とさらなる資質向上を目指し、おはなし会を行う際に必要なよみきかせ等の基礎知識と技能の修得を図るため、年間13回の研修会を開催し、延べ522人の参加者を得た。

自己評価	概ね順調
------	------

理由

- ・ 活動者数は横ばいであるものの、次年度活動を継続しているボランティアも多いことから、充実度を感じられているものと考えられる。
- ・ よみかせ活動については、新規登録する団体が増え、活動の広がりが見られる。
- ・ 活動満足度については3.6と、初年度実績としてはまずまずの出だしとなった。
- ・ 再掲事業については、12ページ参照
- ・ 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は現時点において「概ね順調」と判断する。

課題

- ・ 当館で活動できる場は限られているため、さらに活動の場を広げてほしいという声もある。

対応方針

- ・ 現行のボランティア活動分野の拡大や、新規分野の開拓を検討する。

協議会委員意見

- ・ 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は、妥当であると判断される。
- ・ ボランティア活動の場を広げるための検討を行ってほしい。

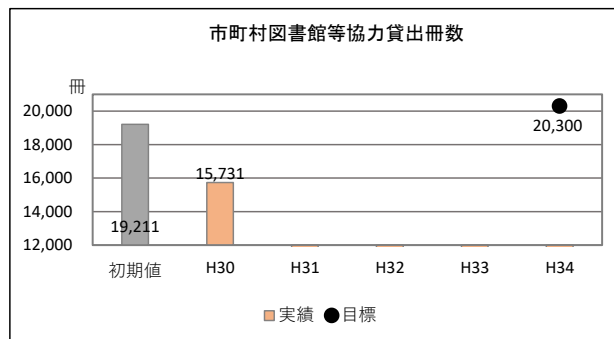
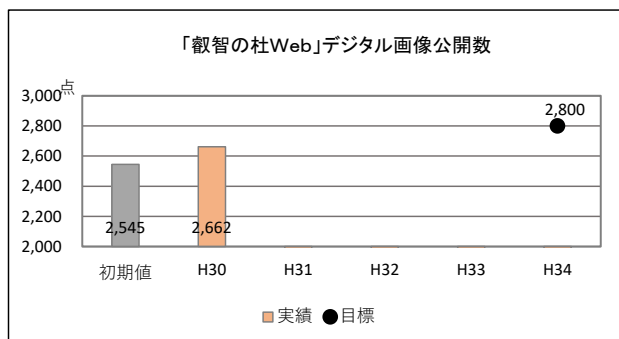
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	平成30年度
--------	--------

施策の方向性	7 公平かつ長期的な視点に立ち、県民が必要とする資料を幅広く収集するとともに、適正に整理、保存し、有効活用を図ります。
--------	---

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料について県民のニーズを把握し、公平性、有効性を考慮し、特定の分野に偏ることなく、可能な限り幅広く収集するとともに、資料の更新・整備を行います。 ・ 関係機関等と連携しながら、当館所蔵資料を活用した展示等を行い、広く県民に公開します。 ・ 資料が利用者に活用される情報資源となるよう、文献リスト等の作成により付加価値の高い情報発信に取り組みます。 ・ 地域の課題等に対応した特集コーナーや展示により、資料の有効活用に取り組みます。 ・ 16ミリ映画フィルム等の点検、整備、適切な保存に努め、その利活用を図ります。
------	---

目標指標					
		初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（平成30年度）	達成率
「叡智の杜Web」デジタル画像公開数 (初期値との差)	2,545点 (-)	2,800点 (+255点)	2,662点 (+117点)	45.9%	【ストック型】
市町村図書館等協力貸出冊数（再掲）	19,211冊	20,300冊	15,731冊	77.5%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
図書館資料整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の幅広いニーズに応じられるよう資料の整備を行った。 ・ 蔵書のバランスを見ながら、不足している分野の逐次刊行物を新規購読するなど計画的に収集を行った。また、宮城県関連の新聞だけでなく、全国紙も含めてマイクロフィルム資料の収集及び作成を行い、保存を図った。 ・ 郷土資料に関しては、資料の種類を問わず、幅広く収集を行うとともに、未所蔵の資料が見つかった場合は、積極的に購入や発行元へ寄贈の依頼を行った。
常設展・企画展開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常設展「本と人の文化史」の他、年4回の企画展「東日本大震災文庫展Ⅷ 震災ボランティアを知る」「移転開館20周年記念企画展『ことばのうみ』と振り返る宮城県図書館の20年」「明治150年記念企画展 明治のお宝出版物 ～宮城県図書館資料で見る明治～」 「宮城県公文書館企画展 土族にみる明治の宮城 一旧仙台藩士たちの挑戦～」を開催し、当館資料を有効活用し、広く県民に公開した。3月末時点で24,267人の来室があった。
協力業務運営事業（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内市町村図書館等への協力貸出を15,731冊、県外図書館等への相互貸借を716冊行い、当館資料の活用を図った。
資料展示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般図書コーナーにおいて、美術館等と連携したものなど様々なテーマで年36回の展示を行った。 ・ 新聞・雑誌室において、季節ごとにテーマを設け年6回の雑誌記事ミニ展示を行った。また、定期的な展示の他にも羽生選手のサイン展示イベントや日本人科学者のノーベル賞受賞時には臨時的に関連雑誌記事の展示を行った。

事業名	実績
紫山移転開館20周年記念講演会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在地(泉区紫山)移転20周年を記念して、宮城県出身の漫画家いがらしみきお氏による講演会を実施したところ、参加者数は85名であった。 ・ 会場前後方に当館で所蔵するいがらし氏の作品約40点を展示し、資料の有効活用を図ることができた。

自己評価	概ね順調
理由 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料整備にあたっては、社会情勢の変化に伴い、県民の課題解決に必要とされる資料を重点的に整備できた。 ・ 企画展については、プレスリリースを活用したことにより記事に取り入れられ、県民に広く周知できた。 ・ 「叡智の杜Web」については、目標公開件数(目標値－初期値)255件のうち前年度は83件、今年度は34件を公開しており、Webを活用した資料の公開が順調に伸びている。 ・ 資料展示については、普段は書庫に保存している資料に県民がふれることのできる機会にもなり、幅広い資料の利用促進に繋がった。 ・ 再掲事業については、6ページ参照 ・ 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 書庫の狭隘化が進む状況であり、効率的な資料の整備が必要である。 ・ 雑誌や行政資料はWEB版への移行が加速しているが、インターネット等を利用できない利用者もいることから資料提供方法について、検討が必要である。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・ 効率的な資料整備や資料提供方法について、他館の対応状況などを調査した上で検討を進める。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は、妥当であると判断される。

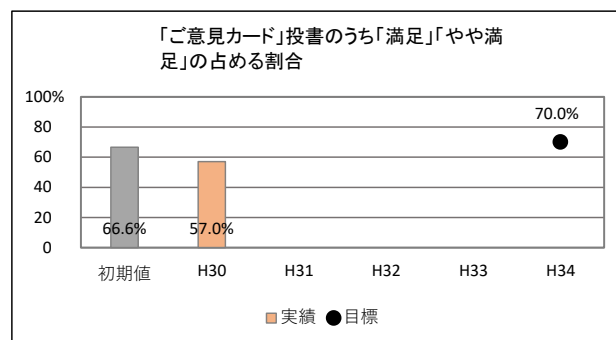
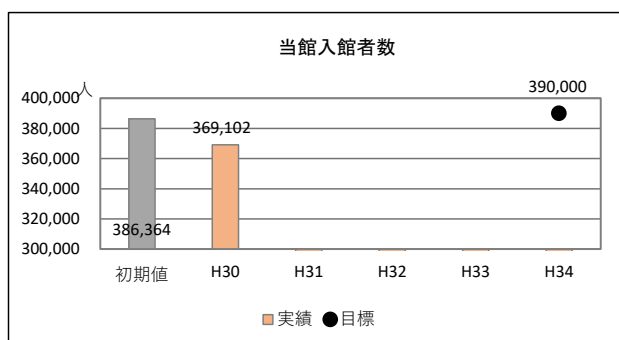
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	平成30年度
--------	--------

施策の方向性	8 安全安心な施設の維持に努め、県民が利用しやすい環境整備を推進します。
--------	--------------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 当館の施設設備を適切に維持管理し、県民が快適な環境のもとで利用できるようにします。また、施設の老朽化や書庫の狭隘化対策について、10カ年の整備計画を立てるとともに、大規模な増改築を伴う改修等、中長期的な環境整備についても検討していきます。 職員のサービス向上と利用者のマナーアップ推進を図り、キャンペーン活動を実施し、利用しやすい環境づくりを行います。 「ご意見カード」や利用者から寄せられた意見をもとに、適宜、改善や考慮すべき事項の見直しを行います。
------	--

目標指標					
		初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（平成30年度）	達成率
当館入館者数		386,364人	390,000人	369,102人	94.6% 【フロー型】
「ご意見カード」投書のうち「満足」「だいたい満足」の占める割合		66.6%	70.0%	57.0%	81.4% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
図書館管理運営事業 (施設管理に関すること)	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化に伴う対応については、エレベーター設備改修工事及び書見の道整備工事のほか、突発的なエスカレーター故障発生に伴う修理工事を行った。 書庫の狭隘化対策については、将来の書庫転用を見据えたエレベーター機械室の一部改修を行ったほか、各都道府県立図書館を対象とした狭隘化に係る対応の実態調査を行った。 中長期的施設整備計画については、外部委託による計画策定に係る現地調査を行った。
サービス向上マナーアップキャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> 読書週間に合わせて、10月27日から11月30日まで実施した。継続の取り組みとして、図書館利用マナーに関する定時的な館内放送や啓発ポスターの掲示等を行ったほか、新たな取り組みとしてカウンターでの破損資料の展示やツイッターでの広報を行った。

自己評価**概ね順調****理由**

- ・ 施設の老朽化に伴う対応は、エレベーター改修や書見の道整備、エスカレーター修理工事及び子ども図書室いす修繕等を実施した。
- ・ 書庫の狭隘化対策について、他県の整備状況を把握するため実態調査を行った。
- ・ マナーアップキャンペーンは、期間を例年より長く設定し、学生の利用が多くなる11月末までとした。また、カウンターでの破損・汚損資料の実物展示やツイッターへの画像掲載を行い、図書館利用マナーの大切さについての理解を深めることができた。
- ・ 「ご意見カード」の「満足」、「だいたい満足」の割合が低下したことは残念であるが、施設整備の面で、懸案であったエレベーターの改修工事などを行い、施設の改善が図られたことから「概ね順調」とした。

課題

- ・ 現在は震災復興に予算が優先されているため、施設の老朽化に伴う対応についての予算化が困難な状況である。
- ・ 「ご意見カード」で不満要因とされる事項に職員の対応があったことから、これまで以上に利用者の立場に立った対応を心がける必要がある。

対応方針

- ・ 施設の老朽化については、施設の維持に自ら工夫を凝らしながら予算の確保に努める。
- ・ 丁寧な対応について「ご意見カード」の内容への対応を検討し、全職員で共有するとともに、職員に「対面コミュニケーション」や「クレーム対応」等のスキルアップを図るための研修を奨励する。

協議会委員意見

- ・ 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は、妥当であると判断される。
- ・ 図書館の存在やサービスに対する全般の評価を測るには一般利用者を対象にした調査の実施を検討した方が良い。
- ・ 県民のための図書館であるため、予算確保に努めてほしい。

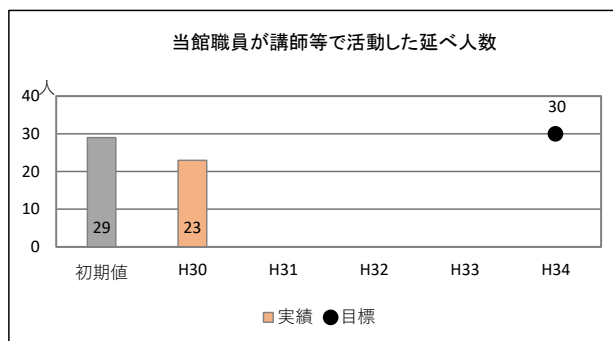
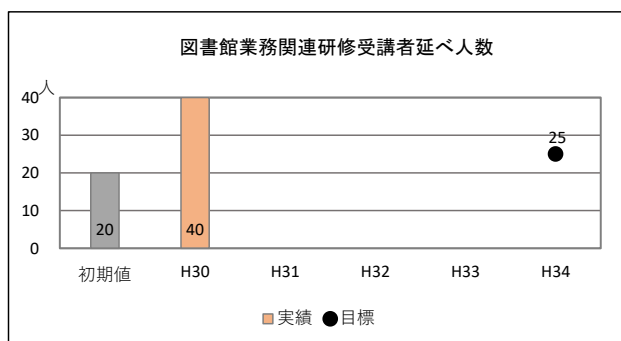
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	平成30年度
--------	--------

施策の方向性	9 組織運営の強化に取り組むとともに、創造性豊かで自主的に行動する人材を育成します。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館サービスのさらなる充実を目的として、各種研修会等に積極的に参加し、職員の資質・能力向上に努めます。 ・ 専門職員の採用も含めた人材の確保と計画的なジョブ・ローテーションによりさまざまな業務を経験・習得させるとともに、他の組織・機関への派遣研修や人事交流等も検討し、より高度な人材の育成に努めていきます。
------	---

目標指標				
	初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（平成30年度）	達成率
図書館業務関連研修受講者延べ人数	20人	25人	40人	160.0% 【フロー型】
当館職員が講師等で活動した延べ人数	29人	30人	23人	76.7% 【フロー型】



構成事業の実績		
事業名	実績	
図書館管理運営事業（再掲） （組織運営及び人材育成に関すること）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種研修会や会議等へ参加するための旅費及び非常勤職員等の人件費等の予算確保に努めた。 	
公共図書館等職員研修（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村図書館等職員・学校司書等を対象とした研修会を年3回（5・7・12月）実施し、知識と技能習得を図った。 ・ 受講者数については、延べ241人の参加があった。 ・ 参加者アンケートでは平均3.6の高い評価を得た。 	
出前講座（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省及び宮城県教育委員会主催、当館主管により、司書等の資質向上のための研修を11月14日から16日までの3日間実施した。 ・ 図書館に関するテーマや地域における課題等について9名の講師による講義を行ったところ、87名の参加があり、今後の業務の参考になったという意見が多く好評であった。 	

自己評価	概ね順調
------	------

理由

- ・「広報研修」、「著作権講習」、「図書館司書専門講座」等、図書館職員として必要な知識を習得するための研修会へ積極的に参加するとともに、館内職員に対する伝達講習を行うことで、スキルアップにつながった。さらに、次代を担う図書館職員の育成を目的として、国立国会図書館と実務研修の相互交流事業に職員を派遣した。
- ・研修で得た知識を活用し、市町村職員等研修会や出前講座において自ら講師を務めた。実績値はやや減少したものの、研修を実施したことにより、市町村図書館等職員のスキルアップにつながった。
- ・再掲事業については、8ページ参照
- ・以上のことから、目標指標の達成度状況は低いものもあるが、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。

課題

- ・研修会への積極的な参加を促進するため、職員が受講しやすい職場環境を整えることが重要である。
- ・公共図書館研修会や出前講座など各種研修会において、得た知識を還元できるようにする。

対応方針

- ・職位に応じた研修の情報を提供するとともに、計画的なジョブ・ローテーションによって職員の業務知識を広げることで、研修中のサポート体制を強化する。
- ・遠隔地の研修への参加や長期間の研修受講も十分できるよう予算確保していく必要がある。

協議会委員意見

- ・自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は、妥当であると判断される。

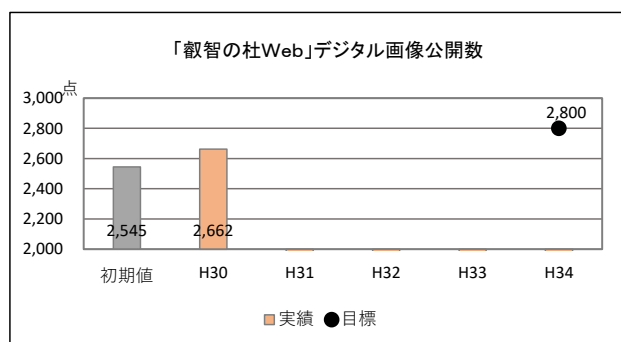
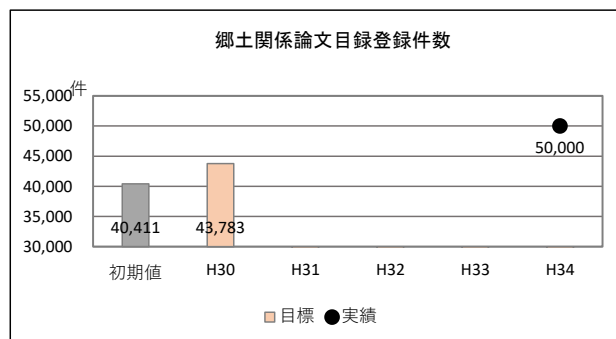
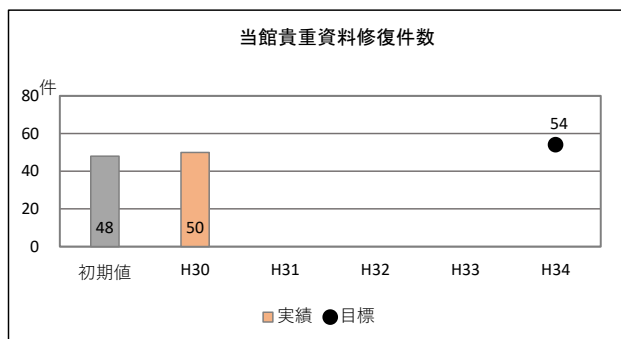
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	平成30年度
--------	--------

施策の方向性	10 宮城の郷土資料を後世に伝えるため、収集・保存や修復を行うとともに、利活用の促進を図ります。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宮城県に関する資料は、網羅的な収集に努めます。 ・ 必要な資料の修復や複製資料(デジタルデータ)の作製等を行い、適切な長期保存と活用に努めます。 ・ 「叡智の杜Web」で文献情報や貴重資料のデータ画像を公開し、利活用を促進します。
------	---

目標指標				
	初期値(平成28年度)	目標値(平成34年度)	実績値(平成30年度)	達成率
当館貴重資料修復件数	48件 (－)	54件 (+6件)	50件 (+2件)	33.3% 【ストック型】
郷土関係論文目録登録件数	40,411件 (－)	50,000件 (+9,589件)	43,783件 (+3,372件)	35.2% 【ストック型】
「叡智の杜Web」デジタル画像公開数 (初期値との差)(再掲)	2,545点 (－)	2,800点 (+255点)	2,662点 (+117点)	45.9% 【ストック型】



構成事業の実績		
事業名	実	績
図書館貴重資料保存修復事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初計画どおり、所々御境目繪圖七枚の内の最後の1枚である「越河石大佛之繪圖」の修復を行った。 	
図書館和古書複製作製事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初計画どおり、「皇国地誌」の附図の磐城國刈田郡34舗のデジタル撮影を行い、デジタル画像の作成を行い、当館ホームページ「叡智の杜Web」で公開した。 	

事業名	実績
図書館資料整備事業（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の幅広いニーズに応じられるよう資料の整備を行った。 ・ 蔵書のバランスを見ながら、不足している分野の逐次刊行物を新規購読するなど計画的に収集を行った。また、宮城県関連の新聞だけでなく、全国紙も含めてマイクロフィルム資料の収集及び作成を行い、保存を図った。 ・ 郷土資料に関しては、資料の種類を問わず、幅広く収集を行うとともに、未所蔵の資料が見つかった場合は、積極的に購入や発行元へ寄贈の依頼を行った。

自己評価	順調
------	----

<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 構成事業はほぼ計画どおりに実施できた。 ・ 再掲事業については、18ページ参照 ・ 以上のことから、目標指標の達成度状況は順調であり、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「順調」と判断する。

課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行予算規模における貴重資料の修復件数は計画通りであるものの、未だ多数ある未修復資料の劣化が著しく、資料的価値が損なわれないよう、さらに修復ペースを加速化させる必要がある。 ・ 貴重資料保存修復事業や和古書複製製作事業の予算の継続的な確保と今後の利活用が課題である。 ・ 「叡智の杜Web」について、資料の公開数は順調に伸びているものの、県民への広報活動がさらに必要と思われる。

対応方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ 貴重資料修復保存事業を拡充・強化し、早期に修復が完了できるよう、適切な修復方法やそのための予算措置について関係機関と協議する。 ・ 文化財保護の必要性を理解してもらえるよう、県民に対して講習会の実施や広報等を通じて保存修復の重要性和文化財保護の必要性をPRする。 ・ 今後の利活用の事業策定について検討する。 ・ 「叡智の杜Web」については、講習会の実施やあらゆる機会を通じて広報に努める。

協議会委員意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価の理由が十分であり、「順調」とした自己評価は、妥当であると判断される。

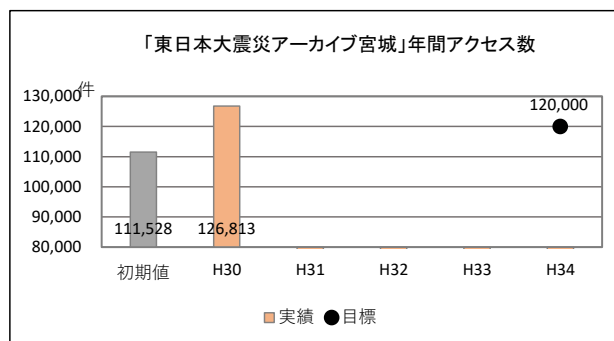
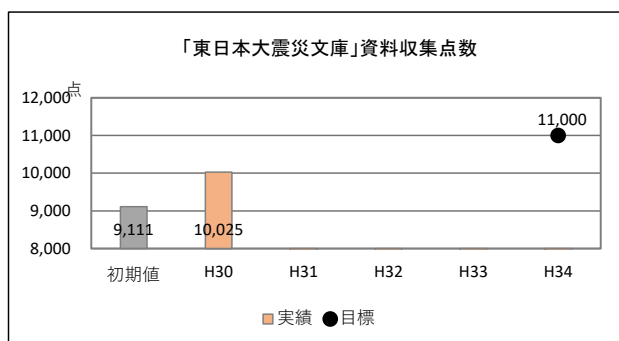
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	平成30年度
--------	--------

施策の方向性	1 1 東日本大震災の記録を収集し、永く後世に引き継ぐための取組を行います。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 震災に関する貴重な記録が失われる前に、県全域を対象として震災関係資料を収集することが求められていることから、「東日本大震災文庫」のより一層の充実を図り、購入可能な資料にとどまらず、非売品や希少性の高い資料を含めた幅広く網羅的な資料の収集に努めます。 震災関連資料を防災・減災に生かすために県内全市町村と連携・協力して構築した「東日本大震災アーカイブ宮城」の管理及び運用を行います。また、連携市町村と設置した「東日本大震災アーカイブ宮城管理運営協議会」と協力しながら、利活用の促進及び公開コンテンツの充実を図ります。 被災した市町村図書館等に対し、中長期的な将来を見据えた運営に配慮した支援を行います。また、震災に関する情報交換や経験共有のために研修会等を通じて、震災から得られた各図書館の経験知を他の図書館の業務に役立ててもらうなど、県全域の市町村図書館等の復興に向けた取組に対して支援を行います。
------	---

目標指標				
	初期値 (平成28年度)	目標値 (平成34年度)	実績値 (平成30年度)	達成率
「東日本大震災文庫」資料収集点数 (初期値との差)	9,111点 (-)	11,000点 (+1,889点)	10,025点 (+914点)	48.4% 【ストック型】
「東日本大震災アーカイブ宮城」年間アクセス数	111,528件	120,000件	126,813件	105.7% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
東日本大震災資料の収集	<ul style="list-style-type: none"> 購入資料の収集は東日本大震災から年数が経つにつれ減少傾向だが、寄贈資料の収集や過年度の未整理資料の整理が進んだため、収集数としては平成28年度から914点増の10,025点(うち図書4,798冊、雑誌1,451冊、視聴覚163点、チラシ3,586点、新聞27紙)と、順調に増加した。 震災伝承団体や語り部団体を訪問するなど、個別の収集も行うことができた。
東日本大震災関連資料保存継承・公開事業	<ul style="list-style-type: none"> 利用者にとって使いやすいサイトとなるように、連携市町村と協力しながらトップページメニューの改善をした。 第20回図書館総合展(10/30～11/1 於:パシフィコ横浜)や未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム(11/22 於:岩沼市民会館)でブースを出展し、アーカイブ宮城の利活用方法について広報活動を行うことができた。
被災した市町村図書館等の復興支援(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> 日本図書館協会東日本大震災対策委員会主催「東日本大震災被災地図書情報交換会」(10/24)に参加し、被災館の復興状況及び支援情報について紹介した。 第20回図書館総合展(10/30～11/1 於:パシフィコ横浜)において、被災地図書館の復興状況を紹介した。 被災図書館再建に向けての相談を継続して行った。 学校や行政機関で不要になった地域資料を当館が収集し、当該資料を東日本大震災により被災した県内の市町村図書館等に随時提供する「みやぎデジタルライブラリー」の目録を整理の上MY-NETに掲載し、地域資料の利活用を図った。

自己評価	概ね順調
理由 <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災文庫の資料収集については、未整理資料の整理が進んだことにより、新たな収集活動に着手することができた。 「東日本大震災アーカイブ宮城」については、コンテンツ収集・公開活動停滞の解消に向けた取り組みが十分に なされていないものの、年間アクセス数が増加傾向にある。 再掲事業については、6ページ参照 以上のことから、目標指標の達成状況及び実績を勘案し、「概ね順調」と判断する。 	
課題 <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災文庫の資料収集は、時間の経過とともに資料収集が困難となっている。 「東日本大震災アーカイブ宮城」についても、東日本大震災文庫同様、時間の経過とともに発災当時のコンテンツの収集が困難となっている状況にある。 	
対応方針 <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災文庫については、震災伝承や被災者支援の活動を終了する団体から資料を譲り受けたり、外部機関と連携して広報・収集するなど、より積極的に働きかけを行う。 「東日本大震災アーカイブ宮城」については、今後は震災からの復旧・復興に関するコンテンツを重点的に収集する。 	
協議会委員意見 <ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は、妥当であると判断される。 「東日本大震災アーカイブ宮城」については、宮城県図書館だけの取り組みではなく、外部との連携により利活用してほしい。 	